



日時:2021年11月27日(土)
13:00~14:10

オンライン
開催
参加無料

つながり，広がる日本語教育

—北陸地域における多様な連携・協働のカタチ—

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。本年度は、複数の団体・組織・機関などが連携・協働して、地域で学び、働く日本語を母語としない人への教育・支援をテーマとしました。今後、ますます多様化が進む社会においてさまざまな課題を解決するには、日本語教育の分野にとどまらず、様々な分野との連携・協働も必要になってくるのではないのでしょうか。異なる分野との連携・協働は、時に難しさを伴いますが、この企画では、**北陸地域（福井、石川、富山、新潟）**において、行政、教育機関をはじめとする**さまざまな団体と連携・協働**して地域の日本語教育・支援に取り組んでいる6つの展示をご紹介します。昨年度に続きオンライン開催であることから、北陸地域での実践紹介にとどまらず地域や国を超えて、意見交換、情報交換ができる場となることを期待しています。ぜひご参加ください。

参加方法 参加方法については、学会ウェブサイトをご参照ください（10月中旬に詳細を公開予定）。本企画は無料プログラムのため、事前参加登録は不要です。

学会ウェブサイトへのアクセスは、こちらから→ <http://www.nkg.or.jp/>

つながり，広がる日本語教育 —北陸地域における多様な連携・協働のカタチ—

第1会場

第2会場

第3会場

第1部 (13:00～13:30) 連携・協働の構築を中心に
**LINEを使った多言語
防災情報の発信**

 村上洋子 氏
 (小松市国際交流協会多文化
防災部会コーディネーター)

小松市国際交流協会

石川

当協会は平成5年に市民と民間団体と行政が連携して作られました。「誰も取り残さない町づくり」を目指し令和2年から**小松市消防本部と連携**し，外国人住民にも災害の情報が伝わるよう5つの多言語公式アカウントを作成し，当協会で作成した外国人防災士が情報を配信しています。今回は市とどのように連携して情報を発信する体制を構築したかについてご紹介します。

民間日本語教育機関が自治体，地域の市民と連携・協働して構築した地域日本語教育の在り方

 高畠智美 氏
 (専任講師/地域日本語教育
アドバイザー)

トヤマ・ヤポニカ

富山

トヤマ・ヤポニカは1990年に富山県内で最初に設立された日本語教育機関です。地域日本語教育のシステム作りの一環として，**日本語教育者・支援者・行政が協働**して地域日本語教室の立ち上げ・継続をしてきました。地域日本語教室は社会と密接につながっているべきとの理念のもと，学校・自治会・企業とも関わってきました。今回はこれらの連携についてご紹介します。

外国ルーツの子ども支援と国際理解教育の連携に向けて

 福永綾 氏
 (新潟県国際交流協会主任)

公益財団法人

新潟県国際交流協会

新潟

当協会は，民間の外国ルーツの子ども支援者等から成る「**新潟県多文化子どもネット**」と教育行政関係者等で構成された「**新潟県国際理解教育推進協議会**」との**連携**を進めています。その試みとして「多文化共生の学校づくり」のテーマで外国ルーツの子どもが在籍しない学校の教員にも日本語ボランティアの活動等を報告する研修を実施した事例をご紹介します。

第2部 (13:40～14:10) 連携・協働の具体的実践を中心に
在住外国人向け防災セミナー「ぼうさいのほんご」の試み

 木林理恵 氏
 (敬和学園大学講師)・
 坂田佑貴 氏 (新発田市多文化
共生コーディネーター)

敬和学園大学・

新発田市市民まちづくり支援課

新潟

新発田市と胎内市では，定住自立圏事業の一環として防災セミナーを開催しています。**新発田市市民まちづくり支援課**の多文化共生コーディネーターの声かけにより，**敬和学園大学で日本語教育を学ぶ学生たちが**このセミナーで「防災に関する日本語」に教育実習として協力しました。今回は，この活動を通して日本語教育実習生，新発田市の双方が得た成果と，近隣地域一帯での連携の形についてご紹介します。

病院との密な連携をもとにした対話中心の地域日本語教室の可能性

 家城香織 氏
 (日本語教室in黒部代表)

日本語教室in黒部

富山

ボランティアによる自主運営教室の当教室は対話活動を通して外国人の生活能力向上と多文化共生社会構築への一助となることを目指しています。外国人の生活上の課題解決のため様々な組織との連携を試みてきました。今回はその一つである**学習者，ボランティア，病院との協働**による外国人妊婦への対応から，学習者に生まれた自信，病院における多文化共生意識の芽生えなどについてご紹介します。

日本語学校と地元高校との連携交流

 銚田裕子 氏・星摩美 氏
 (福井・鯖江ランゲージ
アカデミー主任講師)
福井ランゲージ
アカデミー

福井

福井県内では唯一の日本語学校である本校では，地域の一員として社会的活動を重視し，交流活動を積極的に行っています。今回は，その一環として2018年に始めた**福井県立丸岡高校との連携授業**についてご紹介します。高校側では国際文化理解のための異文化交流活動として，本校では日本語学習成果の発揮・日本人との相互理解と交流を目的として活動を続けています。